

菊陽町史 目次

口 絵

発刊のことば

凡 例

菊陽町長 富永 清次

総説 編

序章 菊陽町の概要 ..... 一

第一節 自然 ..... 一

一 位置 ..... 一

二 自然 ..... 三

三 地形と地質 ..... 三

白川沖積地帯 洪積地帯 南北の両台地

目次

四 氣 候 ..... 六

天氣 風 氣温 降水量

第二節 旧村の概要 ..... 一〇

一 旧原水村の沿革 ..... 一〇

入道水村 柳水村 鉄砲小路(大津新所) 五箇所新地の村 中尾村 南方村

馬場村・北方村 新町 古閑原村

二 旧津田村の沿革(久保田村・津久礼村) ..... 一六

中代村 中代出分村 川窪(川久保)村 津留村 大堀木村 上津久礼村 下津久礼村

花立 八窪(八久保) 新山・境松

三 旧白水村の沿革 ..... 三三

戸次村 馬場楠村 曲手村 唐川(辛川)村・上辛川村

# 歴史編

第一章 古代 ..... 三七

第一節 旧石器時代 ..... 三七

一	日本列島の誕生	一七
二	原日本人の形成	二六
三	日本の火山活動と旧石器文化	三〇
四	熊本県下と菊陽町周辺の旧石器時代の遺跡	三三
五	旧石器人の生活	三三
第二節 縄文時代		
一	自然環境と縄文文化	三五
二	縄文土器	三五
	草創期 早期 前期 中期 後期 晩期	
三	縄文時代の生活	四一
四	縄文人の習俗	四九
五	縄文の米作り	五〇
六	菊陽町と周辺の縄文遺跡	五三
第三節 弥生時代		
一	弥生時代とは	五七
二	稲作の伝来	五九
三	稲作の展開	六〇

四	その他の食料資源	六
五	石器と金属器（鉄器・青銅器）	七
六	菊陽町周辺の青銅器	八
七	弥生時代の葬制	九
八	ムラからクニへ	一〇
九	戦争のはじまり	一一
一〇	外からみた倭	一二
一一	菊陽町の弥生遺跡	一三
	<b>第四節 古墳時代</b>	一四
一	古墳時代とは	一五
二	古墳の種類	一六
三	副葬品	一七
四	土師器と須恵器	一八
五	埴輪と石人・石馬	一九
六	社会の変化	二〇
七	古墳時代の住まい	二一
八	菊陽町の古墳と横穴	二二

第五節 古典 古代(飛鳥・奈良・平安時代)……………九

一 考古学と文献史学の関係……………九

二 大和王権内の権力闘争……………一〇

三 律令制の進展と農民の暮らし……………一〇

四 奈良時代の権力争いと国分寺・国分尼寺……………一〇

五 つづく奈良朝の政権争い……………一一

六 平安京遷都と律令制の変化……………一一

七 律令制度下の肥後国……………一二

八 菊陽町の郡名・郷名と古代官道……………一六

九 菊陽町の奈良・平安時代……………二二

一〇 平安時代後半期の動き……………二七

第二章 中世……………三九

第一節 鎌倉時代……………三九

一 治承・寿永の内乱……………三九

二 幕府の成立と守護・地頭の設置……………三七

三 承久の変と執権制の展開……………四三

四	元寇と鎌倉幕府の衰退	一四
第二節	南北朝の内乱	一五
一	建武の新政	一五
二	九州地方の状勢	一五
第三節	室町時代	一六
一	室町幕府の成立	一六
二	幕府の衰退と応仁の乱	一六
三	中世村落の形成——当時の菊陽町——	一六
四	中世豪族合志氏の誕生	一七
	菊池合志氏    中原(竹迫)合志氏    佐々木合志氏	
第四節	戦国時代	一八
一	国人層の台頭	一八
二	大友氏の肥後進出	一九
三	竜造寺、島津氏の侵攻と合志氏の滅亡	二〇
第三章	近世	二〇
第一節	佐々・加藤の時代	二〇

一	秀吉の九州統一と肥後の動向	二〇九
	九州統一 肥後国	
二	佐々成政の政治と国衆一揆	二四四
	成政の支配 国衆一揆と終末	
三	加藤清正の入国と支配	二九〇
	清正の入国 検地	
四	郷村帳・検地帳の村々	三三六
	柳水村 入道水村 下津久礼村 中代村 その他の村	
五	清正の領国支配と土木水利事業	三三九
	領国支配 土木水利事業 鼻ぐり井手	
第二節	細川氏の入国と領国支配	三四九
一	藩政の展開	三四九
	肥後入国 人畜改めと地撫検地 蔵入地と給知 給人配置	
二	郡村支配体制の成立	三五〇
	郡支配体制 手永制度 惣庄屋 沼山津・大津手永惣庄屋 惣庄屋の事績 会所役人	
第三節	藩政前期の村と豊後街道	三六七
一	藩政初期の村々	三六七
	柳水村・同出分村 入道水村 津留村 川窪村 大堀木村 上津久礼村・同出分村	

	下津久礼村・同出分村	中代村・同出分村	
二	鉄砲小路と村仕立て	御赦免開	地鉄砲
		地筒設置の真意	地筒の御赦免開
			御家中地筒
			他の仕立村
三	参勤交代と豊後街道	参勤交代	豊後街道
		参勤交代路	杉並木
第四節	藩政改革と村の生活		
一	支配体制の変革	財政困窮	宝暦の改革
			宝暦の地引合
			享和の財政改革
			島田嘉津次の改革
二	村支配と農民	手永手鑑	村庄屋
			村役人
三	農民の負担と生活	農民統制	孝子・精農者表彰
			年貢負担
			夫役負担
第五節	産業開発と農村の盛衰		
一	諸産業の奨励	諸開	農業奨励
		諸井手	白川筋分水争い
二	農村社会の変動	土地の移動	土地集積
			農民層分解
三	在御家人の生活		



郷土制度	菊陽町の在御家人	在御家人統制				
第六節	幕末への推移と社会・宗教	.....	四六三			
一	村々の生活	.....	四六三			
	諸札	職人手間料	災害統出	請寄質奉公		
二	幕末への動向	.....	四七二			
	外国船接近	鉄砲小路地筒の動員	大塩の乱の影響			
三	宗教・信仰統制	.....	四七六			
	きりしたん統制	仏教統制	寺社参詣			
四	江戸時代の寺社	.....	四八一			
	阿弥陀堂	浄念寺	天満宮(入道水)	天満宮(柳水)	大原社	日吉山王社
	若宮八幡宮	天神社(大堀木)	天神宮(川窪)	蘇古鶴神社	津森宮	
第四章	近代	.....	四九七			
第一節	肥後の御一新	.....	四九七			
一	明治維新	.....	四九七			
	熊本県と人吉県	熊本県と八代県	八代県の廃止	第一次白川県		
二	地方制度の改革	.....	五〇一			
	大小区制と地方自治					

三	敬神党（神風連）の変	五二
四	西南の役	五三
	薩軍の兵力	
	西南の役に参加した菊陽村民	
	田原坂の激戦	
	大津方面の戦闘	
	西南の役——余聞——	
	西南之役尽力者履歴	
第二節	明治時代以降の政治と社会	五三
一	町村制の成立	五三
	合併村組合村調査	
二	明治維新から郡役所設置までの概要	五七
三	郡役所時代の概要	五八
四	菊池地方事務所	五三
	沿革と活動の概要	
五	大津警察署（付 菊陽町内駐在所）	五八
六	菊陽郵便局（旧称津田郵便局）	五八
七	農地	五〇
第五章	現代	五五
第一節	概説	五五

一	第二次大戦下の郷土	五三
二	戦後の郷土	五四
第二節	町村合併と菊陽村の誕生	五四
一	概 況	五四
二	村名の由来	五五
三	終戦後の合併経過と合併村の沿革	五五
津田村	原水村	白水村
四	町村合併促進法制定後の経緯	五五
五	合併条件および協定事項	五五
六	合併村の三役と正副議長	五五
七	合併時関係三村の現況	五九
八	合併後の菊陽村	五〇
第三節	教育行政の変遷	五二
一	学制改革	五二
(一)	明治年間の教育行政の変遷	五二
(二)	大正期における義務学校と補習教育	五四
(三)	昭和期における教育行政の変遷	五五

(四) 教育制度の改革	五七
二 郷土の学校	五八
(一) 菊陽中学校の設置	五八
(二) 菊陽町立菊陽中部小学校の沿革	五九
久保田小学校沿革	五九
津久礼小学校沿革	五九
津田尋常小学校沿革	五九
菊陽中部小学校花立分校の沿革	五九
(三) 菊陽町立菊陽北小学校(旧原水小学校)の沿革	六〇
桂陰学舎	六〇
(四) 菊陽町立菊陽南小学校(旧白水小学校)の沿革	六一
(五) 菊陽町立武蔵ヶ丘小学校の沿革	六一
(六) 菊陽町立菊陽西小学校の沿革	六一
(七) 菊陽町立武蔵ヶ丘北小学校の沿革	六一
(八) 菊陽町立武蔵ヶ丘中学校の沿革	六一
<b>第四節 農業基盤の整備</b>	六二
一 昭和二八年六月二六日の大水害	六三
災害の誘因と概況	六三
災害の特殊状況と対策	六三
二 圃場整備事業	六四
三 米麦等大規模乾燥調整貯蔵施設(カントリーエレベーター)	六四
四 菊陽町農業協同組合	六五

五	県営圃場整備事業と梅ノ木遺跡発掘調査	六三
(一)	調査に至るまで	六三
(二)	調査団の編成	六四
(三)	調査の概要	六四
	調査地区 発掘調査の経過と結果	
第五節	熊本空港の開設	六七
一	沿 革	六七
二	位置および環境	六八
	位置 環境 気象の特性	
三	施設の概況	六九
四	就航便と訓練所	六九
五	交通量の推移	七三
第六節	町制施行と町の発展	七六
一	町制施行	七六
二	菊陽バイパス・第三空港線の開通	七六
(一)	菊陽バイパスの一部開通	七六
(二)	菊陽バイパスの全線開通	七〇

資料編

(三) 第三空港線の全線開通……………三三

三 町制の進展と将来への展望——快適生活都市菊陽町の建設を目指して……………三三

第一章 菊陽の民俗……………三三

第一節 社会生活……………三三

一 村落組織……………三三

(一) 行政区画の変遷……………三三

(二) ムラの開拓伝承……………三三

(三) 村組と隣保組織……………三三

(四) ムラの役職……………三三

(五) 共同労働……………三三

(六) ムラの休み日……………三三

(七) ムラ入り……………三三

(八) ムラ境……………三三

目 次

(四)	力 石	.....	六五
	二 年 齡 集 団	.....	六〇
	三 講 集 団	.....	六一
	四 家 族 生 活	.....	六三
	五 奉 公 人	.....	六四
	第 二 節 生 産 ・ 生 業	.....	六五
	一 農 業	.....	六五
(一)	土 質 (地 質)	.....	六五
(二)	水 利 と 慣 行	.....	六八
(三)	肥 料	.....	七〇
(四)	馬 糞	.....	七二
(五)	雨 乞 い	.....	七三
(六)	稻 作	.....	七五
(七)	麦 作	.....	七九
(八)	養 蚕	.....	八一
(九)	大 豆 づ くり	.....	八三
(一〇)	タ バ コ	.....	八四
(一一)	草 切 り	.....	八五

(一) 農機具	六六
(二) 生産暦	六九〇
二 川 漁	六九二
第三節 衣・食・住	六九四
一 衣 服	六九五
衣料・染色・機織り	晴れ着
ふだん着	仕事着
かぶりもの	はきもの
二 食 物	六九八
三ばく飯	間食
保存食	
三 住 居	七〇一
屋敷	母屋の間取り
いろり	屋根替え
四 生活用水	七〇八
第四節 年中行事	七〇六
一 正月行事	七〇七
(一) 正月準備	七〇七
門松注連縄	餅揚ぎ
正月箸	鏡餅
農具の年取り	大晦日
大掃除	
年の晩の大黒さん	
(二) 元 日	七〇九
初詣で	若水汲み
灯明上げ	スワリイワン
年取り餅	年始



(三) 仕事始め .....	七三
初仕事 初山 .....	
(四) 七日正月以降 .....	七三
七草粥 鬼火たき 鏡開き 田打ち正月 もぐら打ち 御正忌 ウワドシ	
ドンドヤ 綱引き 梅の花のつくりもの 成り木責め カイバンラ 初寄り	
二十日正月 天満宮の初祭り 毘沙門天祭り	
二 春の行事 .....	七元
年取り直し ひな祭り 鞍岳さん参り 水神さん祭り 地藏さんごもり 社日 彼岸	
子供奉納相撲 南方の馬祭り 風祭り 先祖祭り 宮ごもり 雷祭り 畜産祭り	
三 夏の行事 .....	七三
端午の節句 田植え上がり 大祓い ハゲ 御田祭り 川祭り 七夕 地藏祭り	
つつみの魚取り	
四 盆行事 .....	七三
盆 地獄の休み 川施餓鬼	
五 秋の行事 .....	七三
八朔 十五夜 秋彼岸 重陽の節句 秋祭り 七五三 亥の子	
六 冬の行事 .....	七三
冬至 観音講 おとりこし 庚申祭り 年越し	

第五節 人生儀礼

一 産育習俗 ..... 七四

帯祝い 産婆さん 妊娠中の禁忌 出産の場所と方法 ほうき神 後産 へその緒

産飯 髪立て 七夜 日明き 百日祝いと初正月 初誕生 髪置きと紐解き

若者組入り

二 婚姻習俗 ..... 七九

仲立ち 結納 婿入りと前垂りがけ 祝儀 嫁入り道具 婿入りと嫁入り

祝儀の宴 村ざるき 里帰り

三 厄年と年祝い ..... 七五

厄年 年祝い

四 葬送儀礼 ..... 七三

死の予兆 末期の水と死者の扱い 葬式の準備 通夜 湯灌 入棺 イケカキ

葬式 出棺 野辺の送り 埋葬 墓まるめ 寺参りと茶飲み 初盆と供養 石塔

第六節 信仰生活 ..... 七六

一 大原阿蘇神社の祭り ..... 七六

大原宮社方之覚 祭り座 大原宮諸神事覚

二 信仰の形 ..... 七〇

天神と菅原神社 阿蘇神社 八幡宮 日吉神社 稻荷神社 水神・地神・火の神

三座組	猿田彦大神 荒神 観音菩薩 地藏菩薩 その他 浄念寺・開光寺	七三
-----	--------------------------------	----

第七節 交通・交易・運搬		七四
--------------	--	----

一道路		七四
-----	--	----

ムラの中の道 南郷往還 間島道 竹迫往還 豊後街道 まえの道(新道) 崔迫  
いぼ通り

二鉄道		七七
-----	--	----

軽便鉄道 原水駅 三里木駅

三乗合バス		七九
-------	--	----

四渡し場		七九
------	--	----

下町の渡し 九文の渡し 中代の渡し 曲手の渡し 井口の渡し

五通信		七九
-----	--	----

六交易・行商		七四
--------	--	----

行商人と物々交換 市場 新町の商業 酒造業

七掛け買い		七五
-------	--	----

八運搬		七五
-----	--	----

肩がない 畜力 車

第八節 口頭伝承

一 伝 説 ..... 七九六

大人足 枯木の森 蘇古鶴神社 飯高山 逆修碑 二の分長者 梅の木淵

玄蕃道筋

二 伝承言葉 ..... 七九九

(一) 天気予知 ..... 七九九

(二) 農業言葉 ..... 八〇〇

(三) 前兆・禁忌 ..... 八〇二

(四) 民間療法 ..... 八〇三

(五) 社会生活 ..... 八〇三

三 子供の遊び ..... 八〇四

(一) 男の子の遊び ..... 八〇四

(二) 女の子の遊び ..... 八〇六

(三) 男女共通の遊び ..... 八〇七

(四) 一人で遊ぶもの・集団で遊ぶもの ..... 八〇七

(五) 季節の遊び ..... 八〇九

四 昔 話 ..... 八一〇

かっぱの話 馬場ぐうす

第二章	菊陽町の神仏像	八三
第三章	菊陽町の文化財	八三
第一節	史跡	八三
一	今石城跡	八三
二	今石横穴群	八三
三	鼻ぐり井手	八五
四	六道塚古墳	八七
五	南郷往還石畳跡	八九
六	石坂城跡	九〇
第二節	建造物	八三
一	下津久礼六地藏	八四
二	西園寺随宜の墓	八四
三	井口眼鏡橋	八五
四	入道水眼鏡橋	八七
五	古閑原眼鏡橋	八八

六	上津久礼眼鏡橋	八〇九
七	若宮八幡宮鳥居	八一〇
八	蘇古鶴神社楼門	八一一
第三節	無形民俗文化財	八一二
一	御法使祭りと馬場楠の獅子舞い	八一三
二	上津久礼川施餓鬼	八一四
第四節	天然記念物	八一五
一	入道水菅原神社の楠(樟)	八一六
二	鳥栖孝氏宅の木斛	八一七
三	萬屋の楠(樟)	八一八
四	鈴木重俊氏宅の木斛	八一九
五	下津久礼日吉神社の楠(樟)	八二〇
六	下津久礼日吉神社の銀杏	八二一
第四章	役職員名簿	八二二
一	歴代村長氏名(旧村)	八二三
二	町村合併後の三役氏名	八二四

三	歴代町議会議長・副議長・議員氏名（町村合併以降）	八六
四	歴代教育長・文化財保護委員氏名	七二
第五章	戦没者名簿	七三
第六章	町内小字一覧	八七
第七章	菊陽町歴史年表	九五
	参考文献	九六
	各章の執筆者	九七
	執筆者紹介	九七
	町史編纂室・町職員（所管）	九八
	あとがき	